

名古屋大学特定基金

## 工学部・工学研究科支援基金：NUDF-e

(Nagoya University Designated Fund for School of Engineering and Graduate School of Engineering)

### ■ ご支援のお願い ■

「名古屋大学基金」は、創基150周年を目指して更に充実すべく、卒業生、企業・団体、個人の皆様にご協力をお願いしておりますが、「名古屋大学基金」は、いただいた寄附金を基金として積立て、その運用益で各種の事業を展開するものであり、昨今の厳しい経済状況及び金利の中、十分な運用益を上げることが厳しい状況となっております。

そのため「名古屋大学基金」では、寄附金の運用益による事業とは別に、寄附金の一部を直接支出できる「特定基金」事業を設け、学生育英等の部局事業に活用することとなりました。

### ご挨拶

工学部・工学研究科は、名古屋大学が1939年に愛知県、名古屋市及び地元の産業界等の強い要請から理料系の帝国大学として創設されて以降、1942年に理工学部を理学部と工学部に改組し、1953年には大学院工学研究科を設置しております。

世界を代表するものづくり産業の集積地に位置する地の利を活かしたりサーチ・ユニバーシティとして、先導的な研究を実施し、我が国及び世界の技術・工学の発展に貢献し、また、多面的な学術研究活動と自発性を重視する教育実践によって、次世代の「工学・技術」を創造する能力を有し、豊かな学識・専門性と広い国際的な視野を併せもった先導的な研究者・技術者を育成してまいりました。

しかしながら、特に2004年の国立大学法人化以降、厳しい日本の財政状況の下、運営費交付金は年々減少し、大学運営も年々厳しさを増しており、前途有為の若者の意欲を支援する環境を十分整える余裕がなくなりつつあります。

多くの方々に博士人材の育成の理念は理解ご頂いておりますが、学費等の問題が理由で博士課程への進学をあきらめる者が多くあり、運営費交付金では優秀な大学院生が研究に専念できる経済的支援について対応することが難しく、独自の奨学金制度を整えることが必要不可欠となっております。

また、国からの基盤的経費が減少しており、研究者は競争的資金獲得に努力しておりますが、採択までに多くのプロセスがあり、申請書類や報告書の作成に多くの時間を取られて研究に専念できない状況であり、萌芽的研究を含めた分野融合の研究や、制度や枠に捕らわれない自由闊達な研究を進めるための資金環境の整備が必要となっております。

名古屋大学は、その前身となる尾張藩医学校創設から数え、2021年に創基150周年を迎えることとなります。その歴史の中で、自由闊達な学風のもと、6名のノーベル賞受賞者を含む優れた研究者を生み出すとともに、社会に貢献する多彩な人材を育ててまいりました。

世界をリードする人材の輩出を通して世界に貢献し、研究成果によって社会の期待に応えていくためには、学生や若手研究者が、希望を持って勉学や研究に専念できる環境をより一層整備することが必要です。

工学部・工学研究科では、次のノーベル賞を受賞できる者をはじめ、イノベーションをもたらす科学者・技術者や世界に通用する優れた人材の育成と、それを実施するための教育研究環境の整備事業のために、特定基金を設置しました。

学生や若手研究者が思う存分、勉学や研究に専念できるよう、皆様のご支援を賜りたく、この趣旨にご賛同いただき、格段のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名古屋大学工学部・工学研究科長

水谷法美

## 工学特定基金：NUDF-e による

### 工学部・工学研究科支援事業

(School of Engineering and Graduate School of Engineering Support Program for Students and Researchers)

## 1. 事業の内容

ご寄附いただいた特定基金は、その一部を名古屋大学基金として運営しますが、工学部・工学研究科が行う次の事業に活用させていただき、人材育成の一層の充実を図ります。

なお、ご寄附いただく個人、法人、団体等が用途を希望される場合は、そのご意向に沿って有効に活用させていただきます。

### ■「学生育英事業」

日本の将来を担う優秀な学生(特に大学院博士課程学生)への奨学金制度を創設し、学生が思う存分学業に専念できるよう、経済的な支援を行います。



### ■「教育・研究事業」

共同研究奨励制度(仮称)を創設し、国際的に幅広く活躍できる若手研究者の育成や萌芽的研究を含む分野横断型研究への支援を行います。また、学生のインターンシップや海外派遣経費等の支援を行います。



工学部・工学研究科は、世界を代表するものづくり産業の集積地である中部地区の中心的研究大学として、グローバル化が加速する国際情勢を踏まえ、新しい価値創造や技術革新をもたらすより良い工学系人材の育成に努めてまいります。

寄附金の一部を **直接支出できる特定基金制度** により、皆様のご寄付を **学生や若手研究者に直接支援** することが可能となりました。

なにとぞ名古屋大学工学部・工学研究科へのご支援をお願いいたします。



## 2. 基金の管理運営方法

学内外の委員で構成する名古屋大学基金運営委員会及び工学部・工学研究科内の委員会において事業計画などを審議し、工学部・工学研究科長の決定に従って支出します。

## 3. ご協力をお願いしたい金額

### ● 1口 10,000 円

※ 本基金の趣旨をご理解いただき、複数口のご協力をお願いいたします。

※ 分割納付によるご寄付も可能です。

※ 毎年入学する学生や継続した研究のため、なにとぞ継続したご寄付をお願いいたします。

なお、土地の寄附、建物建築寄附、遺贈による寄附など多様な寄附形態も受け付けさせていただきます。

## 4. お申込み方法

基金へのお申込みは、多様な形態をご用意しております。

いずれの場合も「特定基金」→「工学部・工学研究科支援事業」(工学特定基金)をご指定願います。

### ◆ 銀行・郵便局で振込用紙による方法

基金事務局まで電話(052-789-2011, 4993)又はEメール([kikin@adm.nagoya-u.ac.jp](mailto:kikin@adm.nagoya-u.ac.jp))でご連絡ください。専用の振込用紙を送付させていただきます。

ご連絡は、下記の工学部・工学研究科事務部総務課(工学基金事務局)でも結構です。

### ◆ クレジットカードによる方法

ご利用いただけるカードは、VISA, MasterCard, JCB 等です。

名古屋大学基金HP (<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>)からお申込みください。

### ◆ コンビニ, ATM, インターネットバンキングによる方法

名古屋大学基金HP (<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>)からお申込みください。

## 5. 寄附金に対する税法上の優遇措置

税法上の優遇措置があります。

◆ 名古屋大学基金HP (<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>)をご覧ください。

## 6. ご寄附をいただいた方への特典

■ 名古屋大学基金の特典(下記)に加え、工学部・工学研究科の特典もご用意しております。

ご寄附いただいた方には、誠にささやかではございますが、記念の品をご用意しております。

銘板の掲示	個人で <b>20 口以上</b> (累計も含みます。) ご寄附いただいた寄附者様のご芳名を銘板に刻み、工学部・工学研究科の建物内に掲示します。
名称付与	個人で <b>100 口以上</b> のご寄附の場合、寄附者様の意向を踏まえ、名称付与を行います。(例：〇〇記念室 〇〇記念図書)
行事への招待	個人で <b>100 口以上</b> (累計も含みます。) のご寄附をいただいた場合は、工学部・工学研究科主催の各種行事にご招待いたします。

### ◆ 名古屋大学基金としての特典

個人で **20 口以上** (累計も含みます。) ご寄附いただいた寄附者様のご芳名を銘板に刻み、豊田講堂内に掲示します。

個人で **100 口以上** (累計も含みます。) ご寄附いただいた場合は、総長との懇談会においていただき、感謝状を贈呈するとともに、名古屋大学主催行事にご招待いたします。

※ 詳しくは、名古屋大学基金HP (<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>)をご覧ください。

お問い合わせ先：工学部・工学研究科支援事業に関すること



名古屋大学工学部・工学研究科事務部総務課(工学基金事務局)

〒464-8603 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-3404 E-mail: kou-kikin@adm.nagoya-u.ac.jp